

第5回あおり立志挑戦塾

平成24年10月6日(土)～7日(日) 於:三沢市古牧温泉「青森屋」

□天明塾長挨拶「母への挨拶でスイッチ・オン～わが天命誘導型の人生～」

今日の話は理屈ばかりではなく、私自身がどのようなことを体験してきたかについてお話させていただきます。

私が簿記に興味を持ったのは大学の1年生の終わりの時です。大学を卒業して普通に就職をしましたけどちょっとその会社がおかしな会社で辞めました。辞めて何もあてが無いので「そういえば簿記って面白かったな」と思い出し、1年間独学で会計のことを勉強して、親の脛をかじりながら公認会計士の試験を受けたんですね。試験は7科目あるんだけど経営学を失敗してしまって、これは絶対受からないなと思いました。もし受かっていたらブライス・ウォーターハウスという外資系のすごい公認会計士の事務所が当時あったんですが、そこに入るうとかそんなことを考えていたんです。

でも受かることはないだろうと思って、もうこれ以上親の脛をかじれないということで、大学の教室の紹介で、薄衣先生という会計事務所をされている先生のところへ薫をも掴む思いで訪ねて行ったんですね。先生は「分かった。じゃあ何月何日に面接に来なさい」と言ってくれた。嬉しかったですね。試験に受かっていないのに面接をしてくれると言うんだから。ところが面接の3日くらい前に試験の発表があって、なんと合格していたことが分かった。しまったと思いました。だって世界の1位か2位を争う会計事務所があるのにそっちの面接に行けばよかったと思ったんです。

それで半分冷やかして訪ねたんですね。面接の日、先生が出てきて「おっ、君は公認会計士の試験通ったんだって？ おめでとう。じゃあ学科試験は免除して人間性のテストをしてやる」となった。午前中にそのテストをやって午後から先生が面接してくれた。そして先生はテストの結果を見て言うわけ。「天明君、君は両親に挨拶をしているか?」「えっ?」「君は両親に挨拶をしているかと聞いている」とこうきたのね。

僕の家は魚屋だから父はいつも朝早く出て夜遅く帰ってくるし「おはようございます」なんかできるかと思っていましたね。そこで「いいえ」と言ったら、先生がものすごい剣幕で怒った。「親に頭の下がらないものが、どうして人に頭が下がるか。人に頭の下がらないものがどうして人の指導者たりえよう。うちは専門家はいらん。専門家たる前に人間たれというのが我が事務所の社訓である」と。びっくりしました。正座をさせられて小一時間ほど叱られて本当にしまった、ここに来るべきじゃなかったと後悔しましたね。別な外資系会社のアーサー・

アンダーセンに行こうとか、そんなことが頭を掠めながらそのうち足は段々痺れてくるしもう嫌だと思ったんです。でも先生の話聞いてるうちにだんだんと、いやこれはすごいところに来たみたいだ感じて、実はこの先生すごいのかもしれないと思い始めた。そうだこの先生はすごいんだとなって「お願いします」って頭を下げたんだよね。そしたら先生が「そうか分かった。じゃあ入れてあげよう。そのかわり両親に挨拶しなさい」、「いたします」、「じゃあ、来週の何日から何日の間にお父さんとお母さんを連れて来なさい」、「はい」とこうなった。

びっくりしました。入れてやるからお父さんとお母さんを連れて来なさいと。それでハタと困った。両親を連れて来ると言うことは両親に挨拶をすると先生に約束したということだからね。



どうしたらいいかとクヨクヨ悩んだんです。そうこうしているうちに、両親を連れていく日は近づいてくるし、今日こそ挨拶しよう今日こそはと思うけどなかなかうまくいかない。面接まであと2、3日という時、ちょうど日曜日だったかな。母が襖を開けて向こうから部屋に入ってきた。その時今だと思ってすれ違いざまに「お母さん、おはよう」って言ったんですね。腰が抜けるという言葉があるけれどそんな感じでした。母もびっくりした顔をした。翌日から母には挨拶を言えるようになったんですが、父への挨拶はそれから3年もかかったんです。

そのことがきっかけで私の人生は変わったと思っています。その後独立して会計事務所を立ち上げたんですが、最初はうまくいかなかった。ある時たまたま顔を出す飲み屋のお女将さんから「ある大学で非常勤講師を探しているらしいんだけど」と言われて、その大学から電話をもらったんです。「僕は何を教えるんですか?」、「税法を教

えてほしいだが」、「僕、税法は大嫌いなんです。会計は多少分かるけれど」って断った。そうしたら翌日そのお女将さんが物凄い剣幕で「私がせっかく頼んでやったのに。あんた会計士でしょう、やればできるわよ。石の上にも三年、やりなさい」と言われて「分かりました。やります」ということでお受けしたんです。日本全国広しと言えど、飲み屋のお女将さんから大学の先生の口を世話してもらったのは、後にも先にも私しかいないと思います。

その後宮城大学へ行ったり、この「あおもり立志挑戦塾」の塾長を務めさせていただいているのも、色々な方との出会いがあってこうなっているんだけど、なぜこ

うなっているのか考えてみると、やはり母への挨拶、これがきっかけとなったことは間違いないと思うんですね。あの時に自分が変わったんだと思います。

第2回目の塾で人生には2つの生き方があるというお話をしましたよね。私は今までこれになろうとか、こういうことをやろうとか、自分がこうなろうと考えたことは本当になんてないんです。「こっちに來い」と言われれば「はい」と誰かしらが連れてくれて、行く先々で精一杯やってきました。今思うと「あっそうか、これも運命だったんだな」という人生なんですね。まさに天命誘導型の生き方じゃないかと思っています。

□講話

講師 鍵山 秀三郎 氏 (㈱イエローハット創業者、日本を美しくする会相談役)
題名 凡事徹底～平凡なことを非凡に務める～

皆さんこんにちは。今日はこのようなところに呼んでいただきまして光栄でございます。

私は昭和8年8月生まれでございます、もうちょっとで80歳になろうとしているところです。11歳まで東京に住んでそれから戦争で山梨県に学童疎開しました。半年後東京は大空襲です。住んでいた家も焼けまして、家族で岐阜県に疎開し小学校6年生に編入したんです。それから田舎の中学、高校に行き、お百姓をしながら学校に行ったんです。今の生活とはぜんぜん違います。お百姓が主で学校が副だったんです。大変な労働をして試験勉強もしたことがなかった。そんな余裕がなかった。辛うじて卒業証書だけはもらいましたけれども、人様に誇れるような知識も技能も才能も何もありません。ただ言えることは、努力をする、このことだけは身に付けたんですね。

20歳で東京に出てきて今日まで59年間、色々なことがありました。皆さん方もこれからの人生は長いと思いますが、必ずしも順調な時ばかりではありません。その順調ではない時にそれに耐えられるかどうかは忍耐力を持っているかどうかにかかってきます。忍耐力というのはどうしたら身に付くんでしょう。やはり面倒なこと、手間のかかること、できればやりたくないこと、そういうことを進んでやっていく。その度に忍耐力というのは身に付いてきます。反対に自分にとって有利なこと、楽なこと、そういうことを探してそういう道を歩いていると、忍耐力は身に付くどころか今あるものでさえ消えて無くなっていきます。

私が創業したローヤルは、1997年にイエローハットに社名を変更し東証一部上場を果たしました。それによって会社の規模も資本金も大きくなって、それから楽をしようと思えばいつまでも会社に籍を置いて、秘書を付けて、朝行けばお茶が出てくる、新聞を持ってくる、何かを言えばすぐにやってくれる、そんな生活も可能でした。楽でいいですね。でも私はそういう人生を歩んでいけば、必ず駄目になると思いまし

た。会社で偉くなっている人の中には、どこかに一人で出かけようとした時に列車の切符も買えない、そういう人が沢山いるんです。そういうふうになってはいけません。やはり面倒で手間がかかってできればやりたくない、できればこんなことはしなくて済むというようなことでも進んで引き受ける、そのことによって忍耐力も身に付いてくるということなんです。なぜそういうことが大事なんですか。大体大事なことというのは、面倒で手間がかかって時間がかかる、そういうものなんです。大事なことでも簡単に楽にできることって1つもないんです。反対を言えば、楽で簡単にできることで大事なことは何もないということですね。自分の人生のために、手間のかかることを骨身を惜しまず取り組んでいただきたいんです。



疎開をしていた時いつも働いていました。その中で私が身に付けたのは「不問収穫」ということでした。つまりこれだけ労働してこれだけ仕事をしてこんなに骨を折っても、どれだけ収穫できるかということは問わない、そういうことは考えないということなんです。では何を考えるのか。ただひたすら「只問耕耘」(しもんこうん)です。耕すことです。要するに結果のことは考えない。これだけ働いたらどれだけ成果が得られるかということは考えない。ただひたすら畑を耕し尽くさないということなんです。

私はまさにそのような生活を11歳から20歳まで9年間やってきたんです。その9年間の農業生活によって、実践を通して多くのことを身に付けました。それが以後の約60年近い人生を支えてきたんです。もし私がこの疎開先での体験が無かったら、これほど辛抱強い人間にはならなかったと思います。人間というのは、自分の意に沿わない環境に常に耐えていくことが大切だと思います。自分の思いどおりになる環境の中に身を置いて成長した人は一人もいないということを知っていただきたいですね。

感謝というのは、小さいことに感謝をすると大きい苦しみにも耐えていくことができます。でも小さいことにありがたいという気持ちを持つてない人は、だんだんと大きなことにしか感謝ができなくなります。もっともっと大きなことを求めていくんですね。今の日本がそうです。ますます刺激の強い、インパクトの強いことを求めていく。反対にますます小さいことには気が付かない。小さいことに気が付かない人には感謝ができません。感謝ができない人は苦しみに耐えられませんが、小さな取るに足らないことにも悩んだり苦しんだりして、大変だということに参ってしまいます。



皆さん、西郷隆盛さんを知っていますよね。西郷さんは稼いだそのお金を全部、困っている人、貧しい人に使っちゃって家にお金を持ってこないんです。住まいも本当に雨漏りがするようなところでした。ある雨の日、奥さんがあまりの雨漏りで、もういるところがないというので、せめて屋根だけでも直してくださいと言ったら、日頃人に対して怒ったことがない西郷が激怒して「今は日本中が雨漏りしている。日本の国が雨漏りしている。それなのに自分の家の雨漏りを言うような者は出て行け」と奥さんに激怒したという話が残っています。日本の国、日本の社会、こういうことに一体自分は何ができるのかという考えを持っておられたんですね。

皆さんもこれからの人生をそういう国家感というものを持って臨んでいただきたいと思います。人間の価値というのは色々あります。社会的な地位を持つ。少し有名になる。肩書きを持つ。財産を持つ。大きな会社を創る。それぞれ意味がないとは言いません。いや意味はあるでしょう。しかしもっと大事なことがあります。それは後世に伝えるものを持っているかどうかということですね。

実践のない議論というのは人を説得する力がありません。物事を変えていく力、人を動かす力にならないんです。ああでもない、こうでもないという議論ばかりしていても、それは世の中を変えるだけの力にはなりません。要は実践に裏付けされたものでなければなりません。また議論がなくて実践だけでも駄目です。正しい議論に裏付けされた実践でなければなりません。この両方がうまく噛み合った時に大きな力になるんです。そこで私は、20年前に「日本を美しくする会」という会を創って、会員の人達がそれぞれの地域で、地域をきれにするささやかな運動を始めました。最初は公衆トイレや公園の掃除から始めて、学校のトイレを掃除するという活動をしてきました。国内だけでなく、サンパウロ、ニューヨーク、北京、上海などでもやっています。皆さん方も、志を立てたら、立てた志を途中で消さないで、たとえそれが大きくななくても、一生かけて最初の志に近づく努力をし続けていただきたいと思います。

私は掃除にも華道、茶道といった道があると考えて、勝手に自分で「掃除道」と名付けて取り組んでいます。随分人から嘲笑されました。「何をそんなきれいな事言ってるんだ」とバカにされたり、色々嫌な目にも遭いましたが、今では私を笑った人が笑われているんですね。是非皆さんに心してほしいのですが、皆さん方が何か一心に取り組んだ時に「何をやっているんだ、あんなこと」と最初に嘲笑した人がいつか笑われることになるということなんですね。

サン・テグジュペリの言葉にこういう言葉があります。「真の幸せは自由の中にあるのではなく、義務を感受する中にある」。この言葉は、人間の本当の幸せは自分の我儘や勝手の中にあるのではなく、義務を甘んじて、自分から進んでやる中に真の幸せがある、ということと言ったんですね。義務を怠る人はどうなるか。いつも人から干渉され、監視されて、だんだん窮屈になっていく。そこに幸せはありません。ところが義務を自ら進んで甘んじて引き受ける人は、誰からも監視されないし干渉もされませんので、本当に幸せになれるということをこの短い言葉の中で表現をしたんです。

私が長年にわたって昔から唱えてきた「凡事徹底」という言葉ですが、それはどういう意味ですかとよく質問されます。3つのことを答えています。

1つ目は全てにわたって行き届いているということです。会社でも、表はきれいだけと裏に回ってみると草ボーボーでいらぬ物が山積みになっているところがありますね。こういうのはいけない。なぜか分かりますか？それが普通になってくると、社員は表と裏と別の行動を取るようになるんですね。これは実に恐ろしいことです。表と裏がある人間ほど悪い人間はいないと思います。そうならないようにするためには、全てにわたって行き届いていることが必要です。

2つ目はその人の言っていることとやっていることが一貫しているということです。よく「あの人は本物だよ」と言う人がいますが、その人に「本物ってどういう人のことを言いますか？」と聞くと、ほとんどの人が答えられないんですね。本物かどうかの基準は、言っていることとやっていることが一致しているかどうかということです。言っていること

とやっていることが違う人は偽物です。そういう尺度で今の世の中を見ると、偽物がいかに多いか。できそうもないことをやると言ったり、ただ単に夢でしかないことをやりますと断言したり、すぐできることをやらなかったり。理想と現実の区別のつかない人を欺瞞の人と言います。

3つ目は全てのものを活かし尽くすということです。さっきのゴミ袋1枚でも無駄にしないということですね。この3つが「凡事徹底」の3大条件ですと言ってお答えしています。

仙台でのお話です。4つの学校を皆で掃除し終わった後、その日掃除したトイレがいかに汚れていて大変だったか話をしながら昼食を食べていたらカレーライスを食べている人達いました。相当勇気のある人達だと思うんですが、これも感動すればそういうことができるんですね。無感動の人はそれができません。無感動がいかに怖いかという話で吉田松陰にまつわる話があります。吉田松陰がもう自分の命はまもなく終わるということが分かった時に、少年達を集めて松下村塾で教えました。その時にあの吉田松陰が論議して教えたにもかかわらず、3人の少年はそれでも教えることができなかった。その3人の共通点は何か。無感動であると言っています。ヘレン・ケラーも同じ趣旨のことを言っていますね。無感動を治す薬はない。残念ながら、今の日本は無感動な人がどんどん増えてきました。だから国力がどんどん低下するんですね。

人間はいいことだと分かっていることでもなかなかできません。そのことをユダヤ人はこういう格言で表現しています。「0から1までの距離は、1から1000までの距離より遠い。0から1なんてすぐですよ。でもそれがなかなか行けない。なぜでしょう？ もうお分かりでしょう。0というのは静止状態でまだ何もしてない状態、これからやろうと思っている状態です。1というのはゴミを1個でも拾った状態です。ところがこの1個のゴミが拾えないんですね。本当にこのとお

りなんです。0と1との差は、4と5との差、9と10との差を同じ1だけ意味が全く違います。0と1との差というのは、あるか無いか、やるかやらないかの絶対差の世界です。4と5の差はどちらが多いか少ないかの相対差の世界です。同じ1であってもその意味は全く違うんですね。絶対差の壁を越えないとそれから先に行くことができないんです。

よく「いいことをすると何かいいことがありますか？」と聞かれます。これが契機はあるんです。1ついいことをすると、次も、また次もいいことをします。例えばゴミを1個拾うとあっそれも、これもとなる。これは1ついいことをしたことに対する御褒美なんです。反対に悪いことをした人を見て下さい。1つ悪いことをすると、次も、また次も悪いことをする。これは1つ悪いことをしたことに対する罰なんです。御褒美を受けるか罰を受けるかは、最初に1ついいことをしたか悪いことをしたかで決まってしまうんですね。

最後に、是非この言葉を覚えてほしいと思います。「百萬典経 日下の灯」と書いて「ひやくまんてんぎょう につかのとう」と言います。百万本の教典を読むほど勉強をしても、ただ知識として知っているだけであれば、太陽の下のロウソクでしかないということです。燦々と輝く太陽の下でロウソクに火をつけたって何の意味もないですよ。知っているだけでは駄目なんです。行動に移してはじめてそれは知っていることの意味があるということを表した言葉です。今北洪川という人が言っているんですね。ただ知っているだけというのは腐った木に剛剣をするようなものだ、そういうことも言っています。皆さんは太陽の下のロウソクの火にならないように、暗闇を照らす灯りになっていただきたいですね。暗闇を照らす灯りになれば、たとえ小さな細いロウソクの火であっても立派に役に立ちます。そういう役に立つ灯りになっていただきたいと思います。

□グループディスカッション

テーマ：「私が、周囲に引き起こす変化は何か？」

(塾生は、いかなるミッションを持っているのか、地域づくり等を担うチャレンジャーとして地域にどのような変化を引き起こすことができるのかを5グループに分かれて議論。)

チーム名	主な論点
立志病院	無感動を挨拶で治療する夢の病院。塾生が起爆剤となり活動。
ナルト	地域に変化をもたらすための人の巻き込み方。一人ひとりが地域の営業マンとして活動。
革新	社内イノベーションの実践。下が変われば上が変わる。
田村マロ	ねぶたグランプリの企画。冬季の観光対策。ハネトの増加対策。
ハンツケ	塾生ネットワークのフル活用。異分野異業種の交流促進。



